

理数の窓

平成29年度 第5号

7月18日発行

「理数の窓」第5号です！

そろそろ1学期も終わりが近づいてきて、もうすぐ夏休みですね。勉強して、部活動をして、遊んで、時間を有効に使って充実した夏休みにしましょう！！

担当教員

- 1年 片山(物理), 勝部(生物)
平松富, 牛尾, 井上(数学)
- 2年 栗木(化学)
難波克, 宮良, 宮永(数学)
- 3年 泉(物理), 田辺(化学)
高田, 田淵(数学)

理数系講演会

7月12日(水)の6,7限に2年生対象の理数系講演会がありました。KEK(高エネルギー加速器機構)の小林先生にご講演をしていただきました。ニュートリノについて説明していただいたり、小林先生が現在どのような実験をされているのかお話ししていただいたりしました。

生徒にとっては少し難しい話だったかも知れませんが、みんな熱心に話を聞いて、メモをとったり、先生が用意してくださったクイズに答えたりしていました。普段聞くことのできない貴重なお話を聞くことができたので、みんなの進路選択に活かしてもらえたらと思います。



～生徒の感想～

ニュートリノの研究が進めば人間や宇宙の存在の謎がわかるかもしれないということに驚いた！とても面白い話だった。

素粒子や二重スリット実験のこと、ニュートリノのことを詳しく知ることができて良かった。

8月4日あたりの新聞をよくチェックしておこうと思います！！

素粒子や宇宙の謎をニュートリノが解明する鍵になるかもしれないというのを聞いて、ニュートリノって素敵だな♡と思いました。

ニュートリノについての資料をたくさんいただいたと思うので時間のあるときに少しでも目を通しておきましょう！！8月4日あたり、要チェックです！！

講演会で小林先生が言われていた、8月4日の新聞をチェックしてみると・・・

予告通り記事が掲載されていました！！！！

高エネルギー加速器研究機構などの研究グループは4日、素粒子ニュートリノと、その対となる反ニュートリノの振動が起きる確率が異なる可能性が95%に高まったと発表した。今後、さらに精度が高まればノーベル賞級の業績になる可能性がある。

研究グループは、ニュートリノが飛行中に別のニュートリノに変わる「ニュートリノ振動」という現象に着目。茨城県東海村の施設からニュートリノを飛ばし、295キロ先の岐阜県神岡鉱山跡の地下にある観測施設スーパーカミオカンデで検出する実験で、ニュートリノと反ニュートリノでは振動が起きる確率が違うことを示すデータを積み重ねて、これまでより高い精度で確認できた。

宇宙の誕生直後、物質と反物質は同じ量が生まれたとされてきた。両者は打ち消し合うはずだが、実際には反物質が消え、物質だけが残った。「CP対称性の破れ」と呼ばれ、この現象が様々な素粒子で確認できれば、宇宙に物質が存在する謎の解明につながるとされる。(田中誠土)

朝日新聞 2017/08/04

<http://www.asahi.com/articles/ASK836FH XK83UBQU01X.html>